Portrait ポートレート

発田志音（ほったしおん）君 法学部法律学科４年

テニス選手・審判員の経験を生かし、スポーツ経営学研究に尽力

３歳から始めたテニスは、プロ大会に挑戦するほどの腕前。一方、16歳のとき、当時最年少でB級公認審判員資格を取得。国際試合などで主審も務めた。「審判員の声のかけ方一つで、試合の雰囲気は変わります。舞台演出家に近いですね」。硬式庭球部（矢上部）では、日々仲間たちとの活動を通して、さらにスポーツ経営学研究にも邁進し、10本以上の論文を国際学会誌などに掲載。「審判員の満足度と活動頻度の関連を明らかにした研究は、日本テニス協会の環境改善に役立てられ、実際、若手審判員が10%増加するなどの成果がありました」。数々の功績が認められ、小泉体育奨励賞も受賞。卒業後は弁護士として、スポーツやAIなど法整備が未熟な分野の課題解決を目指す。

審判員としての活躍と研究調査の貢献が評価され、2021年度の小泉体育奨励賞を受賞

硬式庭球部（矢上部）の仲間たちと。「留学生も在籍し、部員の多様性が魅力的です」